

だれもが充実したいのちを燃やして生きることができるように!

私たちは地域・職域・学校など、
生活のいろいろな場面で
「健康寿命」をのばす運動を
実践しています。

よぼう医学

THE NEWS OF HEALTH SERVICE



この報告は、子どもの成育環境を、空間、時間、方法、コミュニケーションの4つの要素と捉え、その相互関係として捉え、今日の成育環境の劣化はそれら総合的悪化によるものとして、分断的・断片的な認識に基づいて、行政や学術領域の境づくり戦略・政策検討委員会の必要を指摘したものです。

わが国では、子どもの学力や運動能力、体力が低下傾向にあることに加え、肥満や糖尿病、不登校やうつ病などメンタル面での問題を抱える子どもも増えており、子どもの成育状況は深刻さを増している。日本学術会議(会長・大西隆東京大学教授)では、こうした状況の改善を目的として、今年4月に「我が国の子どもの成育環境の改善にむけて」成育方法の課題と提言(提言をまとめ、関係省庁に提出した。提言の内容について、この提言をまとめた「子ども成育環境分科会委員長の五十嵐隆東京大学教授(写真上)に、小児科専門医でもある本会の北川照男理事長(写真下)が聞いた(以下、敬称略)。

子どもを元気にする 環境づくり

五十嵐隆教授に聞く

独感、コミュニケーション能力の低下などにつながっていると考えられています。仲間との外遊びやスポーツを通して、からだを動かす、他者と適切に触れ合う機会を増やすライフスタイルを獲得すべきです。それが子どもたちの心身の安定性を高めることにもつながると考えます。



例えば、子どもには義務的に年間何十日、自然体験をさせるというようなことはどうでしょうか。自然体験や遊びを通して人間力を獲得していくという大きな課題です。それが重要な点です。親に、子どもがいて幸せだという思いを実感して欲しいからです。子どもだけではなく、大人への対策も必要だと考えます。

北川 私の子どもは、幼稚園で遊ぶことができて、今は道路で遊ぶことができませんし、空き地もありません。また、治安の問題もあります。自然体験や遊びを通して人間力を獲得していくという大きな課題です。それが重要な点です。親に、子どもがいて幸せだという思いを実感して欲しいからです。子どもだけではなく、大人への対策も必要だと考えます。

北川 私は、幼児の健診では「かわいいですね。元気そうですね」と言っている親を褒めたい。親に、子どもがいて幸せだという思いを実感して欲しいからです。子どもだけではなく、大人への対策も必要だと考えます。

「子ども家庭省」設立などを柱に 日本学術会議が関係省庁に提言

とは少ないです。放課後もコンピュータゲームなどで遊び、みんなで遊ぶことはあまりありません。また、世代を超えて、年上の子が年下の子どもたちも、家庭や学校から山や川で遊ぶことを禁じられたいと思っています。

北川 私は、幼児の健診では「かわいいですね。元気そうですね」と言っている親を褒めたい。親に、子どもがいて幸せだという思いを実感して欲しいからです。子どもだけではなく、大人への対策も必要だと考えます。

4つの要素別に順次検討を行います。08年には成育空間について、今回は成育方法について、提言をまとめました。成育時間についても検討が終わり、このところです。

北川 今回、肥満、衝動的行動の増加、孤

が病んでいく状況に少しでも歯止めをかけたのですが、そのために、学校健診や幼児期の健診で、できることはなんでしょうか。

北川 私たちも、子どもたちが



の面倒を見るようなコミュニケーションも少ないです。こうした孤立的で受動的な生活スタイルが、運動不足や肥満、衝動的行動の増加、孤

が病んでいく状況に少しでも歯止めをかけたのですが、そのために、学校健診や幼児期の健診で、できることはなんでしょうか。

北川 私たちも、子どもたちが

の面倒を見るようなコミュニケーションも少ないです。こうした孤立的で受動的な生活スタイルが、運動不足や肥満、衝動的行動の増加、孤

が病んでいく状況に少しでも歯止めをかけたのですが、そのために、学校健診や幼児期の健診で、できることはなんでしょうか。

北川 私たちも、子どもたちが

が病んでいく状況に少しでも歯止めをかけたのですが、そのために、学校健診や幼児期の健診で、できることはなんでしょうか。

今月の主な紙面

- (1面) ● 子どもを元気にする環境づくり
五十嵐隆教授に聞く
- (2・3面(見開き))
 - 連載 備えあれば憂いなし 第3回
 - 連載 産業医訪問 第88回
 - 連載 健康づくり・健康増進を支援するページ 働く若手! 応援シリーズ 第5回:保健師/管理栄養士/健康運動指導士のコラム
- (4面) ● 乳がん検診の大切さ伝える
ピンクリボン in 東京2011
- 職場復帰にまつわる法律問題
第239回ヘルスクエア研修会
- 職域健診の集計結果の報告内容をさらに充実
一本会
- 台湾・韓国の予防医学事業を研修一本会
- 人・往来

健康管理相談をお引き受けします

当センターの会員が事業所、学校、各種団体の健康管理をアドバイスいたします。

担当: 江幡良晴 三輪祐一

健康管理コンサルタントセンター
事務局 東京都新宿区市谷砂土原町1-2
(財)東京都予防医学協会
電話 03-3269-1141

お問い合わせ・
ご相談は事務局まで
(予約制)

送付先の変更・中止について

送付先の住所変更・購読中止の場合には、変更内容を明記の上、本会広報室までお知らせください。

Eメール
thsa-koho@msj.biglobe.ne.jp
FAX 03-3269-7562

お電話(03-3269-1131)でも承っております。

乳がん検診の大切さ伝える

ピンクリボン in 東京 2011

早期発見、早期治療で9割が治る 本会も検診車の見学コーナーで協力

乳がんの早期発見、早期治療の重要性を伝える、ピンクリボンキャンペーンが、10月の乳がん検診の大切さを啓発するさまざまなイベントが全国各地で開催された。このうち、9月30日に東京・新宿区の都庁都民広場で開催された「ピンクリボン in 東京 2011」(主催・東京都福祉保健局)では、ステージパフォーマンスやクイズラリー、トークショーなどが行われ、多くの市民が来場した。本会も協賛団体として参加し、マンモグラフィ検診車の見学コーナーを担当した。

乳がんは、検診によって早期発見し、早期治療を行えば、90%以上が治ると言われているが、わが国の検診受診率は極めて低い現状にある。このような中、乳がんを知り、検診を受診するきっかけにしようとする「ピンクリボン in 東京 2011」が開催された。

ステージで行われたトークショーには、07年に乳がんになったタレントの山田邦子氏と、03年からピンクリボンキャンペーンに参加しているスポーツキャスターの荻原次晴氏が登壇し、乳がん検診の大切さについて語った。

山田氏は「乳がんが見つかったきっかけは、テレビの健康番組の収録時に乳房模型に触った」と語り、2年に1回は必ず



本会のMMG検診車の見学をする人々。乳がんについて書かれたパネルを真剣に読む姿も



乳がん検診の重要性を訴える山田邦子氏と、荻原次晴氏



実際に乳房模型のがんを触り、自己検診について学ぶ女性

のがんを触って、その感触を覚えたことだった。番組収録後、自己検診してみると、まったく同じ感触の小豆大のしこりが見つかった。すぐに病院に行き、今はこうして元気になっている。自己検診は毎月1回ぜひ行って欲しい」と自身の体験を語った。

さらに、山田氏は「マンモグラフィ(MMG)検診では自己検診では発見することのできない、早期のがんを見つけることができることから、自己検診でも手に触れないからといって検診に行かないのはダメ。自分の命を守るためにも、2年に1回は必ず

台湾・韓国の 予防医学事業を 研修

本会

台湾と韓国には、本会同様、予防医学の実践に取り組む団体がある。これらの団体と本会は30年以上にわたって交流を続け、情報交換や技術協力などを行ってきた。

その一環として、本会では、動統20年の職員を対象に台湾と韓国での研修を行っている。今年は、8月21日から27日までの7日間、7人の職員が研修に参加した。

私たちは、まず台湾の中華民国衛生保健基金会で、タンデムマスを使った新生児マス・スクリーニング設備を見学。公費負担で100%近い受診率を達成しているなどの説明を受けた。



また、今年初めて訪問が実現した啓新診所では、独自の事後指導システムを駆使した人間ドック施設を見学した。パーソンドクターで栄養摂取量と運動量を読み取って分析し、対策を示すソフト(写真)を開発し、導入している点などが興味深かった。

韓国では韓国健康管理協会を訪ね、韓国の健診事情についての説明を受けた他、2つの支部(ソウル西支部と南支部)を見学した。繁華街の中心部という立地もあり、広く明るくモダンで、システムティックな健診施設が印象的であった。

(三輪祐一 総務部部長)

お知らせ

第241回ヘルスケア研修会

低線量放射線の健康影響

1月25日(水) 14:16時
東京・千代田区「星陵会館」

第241回ヘルスケア研修会が1月25日(水)14時から16時まで、東京・千代田区の「星陵会館」で開かれる。「低線量放射線の健康影響」をテーマに、鹿児島大学大学院医歯学総合研究科の秋葉澄伯教授が講演する。司会は本会の加藤宗子保健師。

会場の「星陵会館」は、地下鉄各線「永田町」「国会議事堂前」「溜池山王」「赤坂見附」駅下車、徒歩10分以内のところ。

人・往来

参加費2千円。定員先着400人。

●JICA平成23年度集団研修「学校保健」の研修員が本会を視察

JICA(国際協力機構)では、経済・社会開発に必要な途上国の人材を育成するためにさまざまな研修を行っている。このうち、平成23年度集団研修「学校保健」では、ベナン、エジプト、フィジー、ガーン、ネパールからの研修員8人を受け入れた。

その一行が9月16日に日本寄生虫予防会を訪れ、学校保健における寄生虫検査の役割などについての講義を受講した。

また一行は本会を訪れ、施設や事業の視察を行った。

職場復帰にまつわる法律問題

第239回ヘルスケア研修会

近年、労働者のメンタルヘルス不調が急増し、精神障害などによる労災補償の認定件数も増加傾向にある。このた

ルスカア研修会(主催・健康管理コンサルタントセンター)・本会では、9月28日、企業法務を専門とする加茂法律事務所に加茂善仁弁護士(写真)が「職場復帰にまつわる法律問題―トラブルを起さないためのヒント」と題して講演を行った。



加茂弁護士は、業務以外の理由によるメンタルヘルス不調者への職場の対応を軸に、休職や復職リハビリ活動をめぐる問題について、実際の裁判例や法令を紹介しながら

め職場では、健康の保持や安全配慮を踏まえた対応が大きな課題となっている。

こうした中、第239回ヘル

ら、その争点、法律面からの考え方を詳説した。このうち、休職から復職に関する「労働契約で定められた本来の業務を労働者が遂行できるかどうか」がベースになると述べた。

その上で、休職は「就労を免除し、回復を待つ」ことを猶予する制度である」とし、不調により出勤を繰り返す事例などをあげ、休職の在り方、休職を発令するための要件、医師への受診命令や主治医から健康情報を取得する際

のポイントなどを説いた。

また加茂弁護士は、復職では「治療」の判断が極めて重要となる」と指摘。職務や職種に応じた「本来の業務を遂行できる」状態の具体例を示し、「医師の判断を踏まえ、病状や他の軽易な業務への配置などを考慮し、最終的には使用者(雇用主)が『治療』の判断を見極める必要がある」と強調した。

さらに、加茂弁護士は産業医や主治医との連携の重要性、病状に関する労働者自身の立証責任、復職後の再発防止策、再休職を発令する際の考え方などにも言及した。

職域健診の集計結果の報告内容をさらに充実

本会

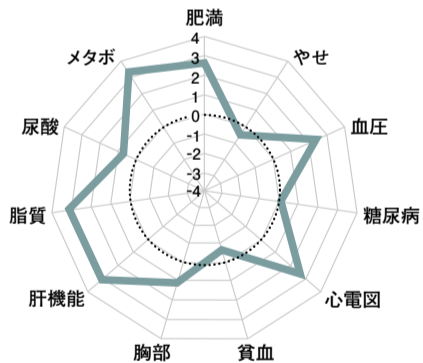
これまで本会では、受診者サービスの一環として、わかりやすい健診結果の提供を目的に、数度にわたり個人結果票の改善を行ってきた。

こうした取り組みに加え

て、ユーザーへのサービスとして健診結果の評価・分析が一目でわかるよう、グラフを多用した「健康診断集計結果」を、これまでの健康診断集計表と別に、追加資料として提供することとした。実施は、2012年1月からの予定である。

この「健康診断集計結果」では、「受診者の構成」「判定別内訳」「メタボ該当者割合」「保健指導対象者割合」「項目別・年別の有所見率」や、前年度

項目別有所見率 本会全体集計値との比較(例)



本会の定期健康診断受診者16万人の平均値を0とし、各事業所の平均値との差を%で表示する

なお、ユーザーから要望があれば、無償で保健師など専門スタッフを派遣し、健康管理担当者への結果説明やアドバイスをを行う予定である。